

教育と子ども支援の連携体制を構築



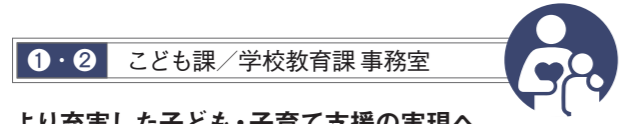
旧保健センターであるA棟は、基本的なレイアウトは変更せずに学校教育課・こども課の2課を配置。子育て支援と教育委員会機能が連携したサポートを行います。



1・2 こども課・学校教育課事務室

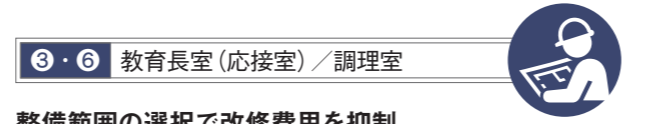


3 教育長室 6 調理室



より充実した子ども・子育て支援の実現へ 2課の事務室が隣接し連携を強化

これまで本庁と方城庁舎に分かれていた、子ども・子育てに関わる2課の事務室を隣接して配置。さらに子育て支援センターも館内に併設し、就学期までの幅広い子育て支援を連携して行うことができます。



整備範囲の選択で改修費用を抑制 旧施設の諸室を活かして整備

A棟は旧施設の諸室やレイアウトを活用して整備。調理室はそのまま使用し、教育長室は活用予定のない浴室を改修するなど、費用の削減に努めています。



旧赤池町時代の平成17年に完成して以降、地域医療・保健の中心として長年多くの利用者に愛されてきた「総合保健施設コスモス」。経営の合理化と効率化のため、令和3年度末をもって方城診療所に統合される形で、惜しまれながらもその役目を終えました。

そのような中、町では長年の課題であった公共施設の統廃合に着手。費用面・機能面を考慮した施設の選択と

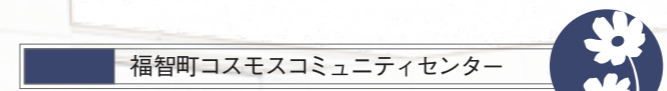
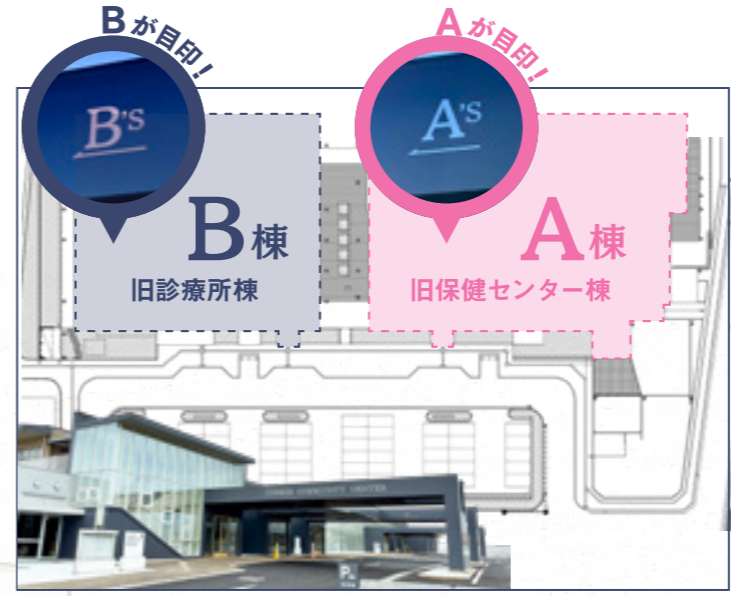
合併20年の節目に 拠点となる新施設が誕生

集中により、旧3町単位の公民館、および方城庁舎に配置されていた教育委員会機能を一か所に統合し、コスモスを改修して整備する計画が決定しました。また広大な施設を最大限に活用するため、こども課および子育て支援センターも移管し、より幅広い支援を行う多目的施設「コスモスコミュニティセンター」として4月から新たなスタートを切りました。

総改修費用の約7億6千万の大部分は、7割が国から地方交付税として措置され、町の収入となる合併特例事業債を活用。これにより町の財政負担を最小限に抑えた施設の集約化が実現しました。

地域医療から 地域交流の拠点へ

合併から20年、節目の年に生まれ変わった新たな拠点施設「コスモスコミュニティセンター」。今月号では、新施設の機能と魅力をお伝えします。



福智町コスモスコミュニティセンター これからも地域に愛される多目的施設へ 「コスモスコミュニティセンター」完成

施設名称は広報紙による公募の結果、旧赤池町の町花であり、旧施設の名称としてなじみの深い「コスモス」を冠した名称に決定。旧保健センター棟をA棟、旧診療所棟をB棟とし、用途を分けて整備しました。

Pick Up 親子の交流の場が充実の設備でリニューアル! 「福智町子育て支援センター」

保護者同士の交流の場、お子様のあそび場としてご利用いただける、子育て支援センターがコスモスA棟でリニューアルオープン。毎月のイベント開催や、自由に遊べる遊具スペースなど、近隣でも類を見ない充実した設備でお待ちしています。

子育てサロン解放: 月～金 10時～16時
※電話相談・来所相談は9時～

対象者: 0歳から就学前の子どもとその保護者
※町外のかたも利用可能。



4 子育て支援センター 5 遊具スペース



1 こども課	4 子育て支援センター	7 多目的ホール1
2 学校教育課	5 遊具スペース	8 多目的ホール2
3 教育長室(応接室)	6 調理室	

- 男子トイレ
- 女子トイレ
- 多目的トイレ
- こどもトイレ
- 授乳室・搾乳室
- おむつ交換室
- 受付